

アラウンド GOGO 55



あと4年、いい仕事した

かな？
近藤博仁

れも大いに関係あるかもしれない。

*

こうしてみると学校の内外を問わず、気持ちの良い仲間が囲まれて仕事ができていることを本当に実感する。焦りながら、やりくりしながらも発達保障講座を継続し続け、事務局を維持し続けてきた結果なのだろうか。

「やっぱ、全障研はええよ！」そんな実感をもちつつぼちぼちやっている55歳である。岐阜の若い人、事務局仲間になつてちよー！ きつとええことあるよ！。

（岐阜支部、中濃特別支援学校）

*「アラウンド55（ゴーゴー）」は、50代をむかえた会員によるエッセイコーナーです。

に、私とペアを組んでいた若い先生の授業を見て、「こっちの授業の方が良い」と、キッパリ言った土岐さんだった。

*

懲りずに2度目の研究授業にも名乗りをあげた。3年後の全校研である。重度の子にどんな性教育をしていくのか？ 重度の子に自己肯定感を保障していく授業とは？ というテーマで授業を考えていった。このときの講師は、全障研会員で性教協の渡辺武子さん。やはり全障研の仲間うちの研究会をしているよう

になった。彼女は暖かい言葉をくれた。いい気になって今年3回目の研究授業を行った。全校研ではなくて、小学部の研究授業ではあるが、こうなると、単なる目立ちたがり屋か。「優しさ」をどう伝えるかをテーマに授業を仕組んだ。小学部の先生たちは、私のメッセージをみんな暖かく、優しく受け止めてくれた。そう、「優しさ」を伝えているのは、私よ

りまわりのみんなだった。学部の先生37人の内、「みんなのねがい」の購読者は20人、こ

6年前、ちょうど半世紀を生きた年に、知的障がいのある学校に赴任した。残りの年を良い仕事をして締めくくりたいと殊勝なことを願った。

2年目の秋、研究授業を買って出た。全校研究会、略して全校研。全校研が全障研を呼んでいる。：そんなわけはないか：講師は全障研現岐阜支部長の土岐邦彦さん。お互い言いたいことが言える関係ではあるが：私の授業に絶句した。なんとか講評（社交辞令）を言い、その場をしのいだようだ。しかし、別の機会